

音更町酪農・肉用牛生産近代化計画書

令和3年12月

北海道河東郡音更町

目 次

- I 酪農及び肉用牛生産の近代化に関する方針
- II 生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標又は肉用牛の飼養頭数の目標
 - 1 生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標
 - 2 肉用牛の飼養頭数の目標
- III 酪農経営又は肉用牛経営の改善の目標
 - 1 酪農経営
 - 2 肉用牛経営
- IV 乳牛又は肉用牛の飼養規模の拡大に関する事項
 - 1 乳牛（乳肉複合経営を含む）
 - 2 肉用牛
- V 国産飼料基盤の強化に関する事項
- VI 生乳の生産者の集乳施設の整備その他集乳の合理化のための措置又は肉用牛の共同出荷その他肉用牛の流通の合理化のための措置
 - 1 集送乳の合理化
 - 2 肉用牛の共同出荷その他肉用牛の流通の合理化のための措置

I 酪農及び肉用牛生産の近代化に関する方針

音更町の農業は概ね平坦な地形の中で、恵まれた水利、肥沃な土壌条件を生かし、畑作・酪農を中心にして、野菜及び肉用牛経営が展開し、安定的な発展を続けてきました。

酪農及び肉用牛生産については、気候により左右される不安定な耕種部門と比べて変動が少なく、寒冷地農業の柱としての役割を担い、また耕種部門に対して有機物を供給し地力増進に寄与するなど、土地利用・資源循環型農業の要として機能しています。

しかし、現在の酪農及び肉用牛生産は、経営者の高齢化や後継者不在による農家戸数の減少、国際化の進展に伴う輸入牛肉や乳製品との競合、国際的な穀物の高騰などが課題となっているほか、大規模な地震や台風をはじめとした自然災害、新型コロナウイルス感染症の長期化など、不測の事態において経営の継続ができるよう経営者の備えや体質の強化が求められています。

さらに、環太平洋パートナーシップ協定（TPP11）をはじめ、日欧EPA、日米貿易協定などの発効により、農業・食に対する消費者の関心がかつてないほど高まっており、消費者への的確な情報提供、生産・加工・流通の各段階におけるリスク管理の徹底等により、消費者の求める安全で高品質な畜産物を生産・供給することが求められています。

このため、恵まれた土地条件を活用し、耕畜連携による資源循環型酪農・肉用牛生産を基本として、飼養管理技術の向上・高度化や外部支援システム（コントラクター・公共育成牧場・ヘルパー等）の活用による省力化と生産性向上を進め、所得の確保を図ります。

また、農業環境規範に基づく家畜排せつ物の適正な管理と利用の促進、家畜伝染病の侵入防止、畜産物に係る安全・安心の確保及び食育を推進するとともに、多様な経営体の育成と担い手の育成確保により、人と家畜と環境にやさしい畜産経営の確立を図ります。

II 生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標又は肉用牛の飼養頭数の目標

1 生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標

区域名	区域の範囲	現在 (平成30年度)				目標 (令和12年度)					
		総頭数		生乳生産量 t	経産牛1頭当たり年間搾乳量 kg	総頭数		経産牛1頭当たり年間搾乳量 kg	生乳生産量 t		
		成牛頭数	経産牛頭数			成牛頭数	経産牛頭数				
音更町	町内一円	9,868	5,428	5,099	9,337	47,608	10,327	5,660	5,410	9,908	53,600

(注) 1. 成牛とは、24ヶ月齢以上のものをいう。以下、諸表において同じ。

2. 生乳生産量は、自家消費量を含め、総搾乳量とする。

3. 「目標」欄には、令和12年度の計画数量を、「現在」欄には原則として平成30年度の数量を記入すること。以下、諸表について同じ。

2 肉用牛の飼養頭数の目標

区域名	区域の範囲	現在 (平成30年度)						目標 (令和12年度)									
		肉専用種			乳用種等			肉専用種			乳用種等						
		肉用牛総頭数	繁殖雌牛	肥育牛	その他	計	乳用種	交雑種	計	肉用牛総頭数	繁殖雌牛	肥育牛	その他	計	乳用種	交雑種	計
音更町	町内一円	6,958	2,966	3,450	0	6,416	8	534	542	7,340	2,490	4,520	0	7,010	5	325	330

(注) 1. 繁殖雌牛とは、繁殖の用に供する全ての雌牛であり、子牛、育成牛を含む。

2. 肉専用種とは、繁殖の用から繁殖雌牛及び肥育牛頭数を減じた頭数で子牛を含む。以下、諸表において同じ。

3. 乳用種等とは、乳用種及び交雑種で、子牛、育成牛を含む。以下、諸表において同じ。

III 酪農経営又は肉用牛経営の改善の目標

1 酪農経営方式
単一経営

目指す経営の姿	生産性指標										人											
	経営概要					飼料					生産コスト	労働	経営			備考						
	経営形態	飼養形態	牛	作付	外飼化	購入国産飼料	飼料自給率	粗飼料給与率	経牧内肥料利用率	生乳1kg当り費用			総労働時間	総収入	経営費		農業所得	主たる事業者1人当たり所得				
つなぎ飼い 60頭	家族	つなぎ ヘルバ 公共牧場	60	つなぎ ヘルバ 公共牧場	分継給与	舎飼	10,000	4	牧草 トウモロコシ	25	コントラク ター 利用組合	-	72	65	9	70	57.9	3,589 (2,000)	6,180	4,380	1,800	900
つなぎ飼い 80頭	家族	つなぎ ヘルバ 公共牧場	80	つなぎ ヘルバ 公共牧場	TMR	舎飼	10,000	4	牧草 トウモロコシ	30	コントラク ター 利用組合	-	72	65	8	70	55.2	4,417 (2,000)	8,240	5,840	2,400	800
フリーズトール 120頭	家族 法人	フリーズ トール 搾乳 ボット	120	フリーズ トール 搾乳 ボット	TMR	舎飼	10,000	4	牧草 トウモロコシ	45	コントラク ター 利用組合	-	67	60	7	70	43.2	5,183 (2,000)	12,360	8,760	3,600	900
フリーズトール 200頭	家族 法人	フリーズ トール 搾乳 ボット	200	フリーズ トール 搾乳 ボット	TMR	舎飼	10,000	4	牧草 トウモロコシ	60	コントラク ター 利用組合	グラスサイ レントコーン サイ レーン	67	60	6	70	35.2	7,040 (2,000)	20,600	14,600	6,000	1,500
フリーズトール 400頭	法人	フリーズ トール 搾乳 ボット	400	フリーズ トール 搾乳 ボット	TMR	舎飼	10,000	4	牧草 トウモロコシ	80	コントラク ター 利用組合	グラスサイ レントコーン サイ レーン	62	55	3	70	35.1	14,040 (2,000)	41,200	29,200	12,000	2,000

- 「方式名」欄には、経営類型の特徴を、「備考」欄には「方式」の欄に拠る方式を適用すべき区域名等を記入すること。
- 6次産業化の取組を織り込む場合には、基本方針の第3の票のように、6次産業化部門に係る指標を分けて記入すること。
- (注) 1, 2については、「2肉用牛経営方式」についても同様とする。

2 肉用牛経営方式

(1) 肉専用種繁殖経営

目指す経営の姿	経営概要					生産性指標										人				備考					
	飼養形態					牛					飼料					生産コスト					労働				
	飼養頭数(頭)	飼養方式	外部化	給与方式	放牧利用(放牧面積)(ha)	分娩間隔(月)	初産月齢(月)	出荷月齢(月)	出荷時体重(kg)	作付体系及び単収(kg)	作付延べ面積※放牧利用を含む(ha)	外部化	購入国産飼料(種類)	飼料自給率(国産飼料)(%)	粗飼料粗給与率(%)	経営内堆肥利用割合(割合)	子牛1頭当たり計(頭状との比較)(円、%)	生産コスト	子牛1頭あたり飼養労働時間		総労働時間(主たる従事者)	粗収入(万円)	経営費(万円)	農業所得(万円)	主たる従事者1人当たり所得(万円)
I 専用種繁殖経営	繁殖30	牛房群飼	-	分雌給与	-	12.5	24.0	去勢(9)雌(9.5)	去勢305kg雌295kg	7.8	-	-	89	80	10	400,000	80	2,416(1,800)	1,762	780	982	540			
II 専用種繁殖経営	繁殖50	牛房群飼	-	分雌給与	-	12.5	24.0	去勢(9)雌(9.5)	去勢305kg雌295kg	13.0	-	-	80	80	10	400,000	80	3,027(2,000)	2,937	1,300	1,637	900			
III 専用種繁殖経営	繁殖100	牛房群飼	-	分雌給与	-	12.5	24.0	去勢(9)雌(9.5)	去勢305kg雌295kg	15.0	-	-	70	80	10	400,000	80	6,805(2,000)	5,875	2,600	3,275	1,800			

(2) 肉牛用 (肥畜・一貫) 経営

方式名 (特徴 となる 取組の 概要)	生産性指標										備考										
	経営概要			飼料								労働		経営							
	経営 形態	飼養 方式	給与 方式	肥育開始 時月齢 (ヶ月)	出荷 月齢 (ヶ月)	肥育 期間 (ヶ月)	出荷時 体重 (kg)	1日 当たり 増体量 (kg)	作付体 系及び 単収 (kg)	作付 延べ 面積 ※放牧 利用を 含む (ha)		外部化	購入国 産飼料 (種 類)	飼料自 給率 (国産 飼料)	経営内 堆肥 利用率 %	生産コスト 肥畜牛1頭当たり 費用合計 (現状と の比較) (円、%)	牛1頭あたり飼 養労働時間	総労働時間(主 たる従事者)	粗収入(万円)	経営費(万円)	農業所得(万 円)
専一 用真 種経 営 繁殖 肥育	家族 経営 専業	牛房 群飼	分 離 給 与	去勢 (0.8) 雌(0.8)	去勢 (26.0) 雌(27.0)	去勢 (18.0) 雌(19.0)	去勢 750kg 雌 660kg	去勢 0.907kg 雌 0.769kg	10.0	コン ト ラ ク タ ー	稲わら 乾草	17	60	10	800,000	25	4,751 (2,000)	5,280	3,840	1,440	720
肥育 専用 経営	法人 経営	牛房 群飼	分 離 給 与	去勢 (0.8) 雌(0.8)	去勢 (26.0) 雌(27.0)	去勢 (18.0) 雌(19.0)	去勢 750kg 雌 660kg	去勢 0.907kg 雌 0.769kg	10.0	コン ト ラ ク タ ー	稲わら 乾草	0	60	0	1,100,000	18	4,402 (2,000)	66,000	60,000	6,000	600

(注) 1. 繁殖部門との一貫経営を設定する場合には、肉専用種繁殖経営の指標を参考に必要項目を追加すること。
2. 「肥育牛1頭当たりの費用合計」には、もと畜費は含まないものとする。

IV 乳牛及び肉用牛の飼養規模の拡大のための措置

1 乳牛

(1) 地域別乳牛飼養構造

地区域名	① 総農家戸数	② 飼養農家戸数	②/①	乳牛頭数		1戸当たり平均飼養頭数 ③/②
				③ 総数	④ うち成牛頭数	
音更町	戸 654	戸 68 (7)	% 10.4	頭 9,868	頭 5,428	頭 145
	目標	(3)		10,327	5,660	164

(注) 「飼養農家戸数」欄の()には、子畜のみを飼育している農家の戸数を内数で記入する。

(2) 乳牛の飼養規模の維持及び拡大のための措置

公共牧場の活用、酪農ヘルパー等の営農支援組織の充実や耕畜連携等による良質な粗飼料の確保、飼養管理技術の向上のための研修や人材育成の取組などを推進します。
畜産クラスター事業等を活用した規模拡大、組織経営体の育成、ICTやIoT技術を活用した省力化に対する支援を実施します。また、牛群検定情報等の活用による適切な飼養・繁殖管理、性別別精液の活用等による必要な乳牛頭数の確保の取組を推進します。

2 肉用牛

(1) 地域別肉用牛飼養構造

	地域名	① 総農家数	② 飼養農家 戸数	②/①	肉用牛飼養頭数								
					総数		肉専用種				乳用種等		
					頭	頭	計	繁殖雌牛 頭	肥育牛 頭	その他 頭	計	乳用種 頭	交雑種 頭
繁殖専用 経営種	音更町	戸 654	戸 28	% 4.3	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭
	現在				1,322	1,314	764	550	0	8	0		
	目標		28		1,440	1,430	790	640	0	10	5		
種肉 経営種	音更町	戸 654	戸 7	% 1.1	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭
	現在				5,102	5,102	2,202	2,900	0	0	0		
	目標		7		5,580	5,580	1,700 (1,700)	3,880 (3,880)	0	0	0		
交乳 育種 経営種	音更町	戸 654	戸 1	% 0.2	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭
	現在				534	0	0	0	0	534	0	534	
	目標		1		320	0	0	0	0	320	0	320	
合計	音更町	戸 654	戸 36	% 5.5	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭
	現在				6,958	6,416	2,966	3,450	0	542	8	534	
	目標		36		7,340	7,010	2,490 (1,700)	4,520 (3,880)	0	330	5	325	

(注) () 内には、一貫経営に係る分(肉専用種繁殖経営、乳用種・交雑種育成経営との複合経営) について内数を記入すること。

(2) 肉用牛の飼養規模の維持及び拡大のための措置

公共牧場の活用、営農支援組織の充実や耕畜連携等による良質な粗飼料の確保、飼養管理技術の向上のための研修や人材育成の取組などを推進します。
繁殖経営所得の確保・増大に向け、耕種・酪農との複合経営の育成と生産効率の改善を図り、肉専用種の生産を推進します。
イ 肉専用種肥育経営
ウ 育種改良や肥育技術の向上により、肉質の均一性と肉量の確保を図り、機械導入による省力化と規模拡大を推進します。

ウ 乳用種・交雑種の育成経営
また、ほ場副産物や粗飼料の有効活用等により事故率の低減を図るとともに、哺乳ロボット等の導入による省力化を推進します。

また、ほ場副産物や粗飼料の有効活用等による低コスト生産を促進するとともに、哺育・育成経営や肥育経営の一貫経営への移行により、安定した経営の確立と規模拡大を推進します。

また、ほ場副産物や粗飼料の有効活用等による低コスト生産を促進するとともに、哺育・育成経営や肥育経営の一貫経営への移行により、安定した経営の確立と規模拡大を推進します。

また、ほ場副産物や粗飼料の有効活用等による低コスト生産を促進するとともに、哺育・育成経営や肥育経営の一貫経営への移行により、安定した経営の確立と規模拡大を推進します。

V 国際飼料基盤の強化に関する事項

1 飼料の自給率の向上

		現在 (平成30年度)	目標 (令和12年度)
飼料自給率	乳用牛	51.3%	54.7%
	肉用牛	10.4%	10.5%
飼料作物の作付延べ面積		2,639 ha	2,750 ha

2 具体的措置

- ・草地生産性向上のため、地域の実情に合わせた草地整備、草地改良、草地更新、草地管理を効率的に推進します。
- ・公共牧場の効率的な利用を図るため、地域の飼養動向、利用農家ニーズに対応するとともに、機能の充実・強化、老朽施設の更新や草地の整備を推進します。
- ・飼料作物の増産のためには、労働力の低減や低コスト化が不可欠であり、作業の共同化や大型化を推進し、コントラクター・TMRセンター等の外部委託についても検討するなど、効率的な飼料生産を目指します。
- ・飼料用とうもろこしについては、技術の向上や適期収穫などにより良質な粗飼料を確保し、自給飼料の割合の向上を目指します。

VI 生乳の生産者の集乳施設の整備その他集乳の合理化のための措置又は肉用牛の共同出荷その他の肉用牛の流通の合理化のための措置

1 集送乳の合理化

指定生産者団体を中心とした計画生産に基づく集送乳体制を支援し、町内に乳業工場がある点を生かし、生乳流通コストの低減を図る。

2 肉用牛の共同出荷その他肉用牛の流通の合理化のための措置

(1) 肉用牛(肥育牛)の出荷先

区域名	区分	現在 (平成30年度)						目標 (令和12年度)							
		出荷頭数			②/①			出荷頭数			②/①				
		道内			道外			道内			道外				
		食肉処理 加工施設 ②	家畜市場	その他	頭	%	頭	食肉処理 加工施設 ②	家畜市場	その他	頭	%	頭		
音更町	肉専用種	頭	1,874	頭	529	頭	106	頭	1,239	%	28	頭	1,930	%	32
	乳用種	頭	80	頭	24	頭	56	頭	30	%	30	頭	50	%	38
	交雑種	頭	534	頭	534	頭	0	頭	320	%	100	頭	320	%	100

(注) 食肉処理加工施設とは、食肉の処理加工を行う施設であって、と畜場法(昭和28年法律第114号)第4条第1項の都道府県知事の許可を受けたものをいう。

(2) 肉用牛の流通の合理化

共同出荷を行うなど、肉用牛の入出荷体制の合理化に努め、ホクレン十勝家畜市場が町内にある利点を生かしながら、流通コストの削減に取り組む。